未来医療研究人材養成拠点形成事業
選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント
[テーマＢ：リサーチ・マインドを持った総合診療医の養成]

整理番号	Ｂ－２

申請担当大学名（連携大学名）	筑波大学
事業名	次世代の地域医療を担うリーダーの養成
事業責任者	医学医療系 教授／総合臨床教育センター 部長　前野　哲博

事業の概要

本事業では、次世代の地域医療を担うリーダーを養成することを目標とする。教育プログラムは、学生・研修医、後期研修医、総合診療専門医の 3 つの段階を通して、総合診療医としての高い専門能力・研究能力を修得するとともに、地域医療のリーダーに求められるノンテクニカルスキルも、明確な人材養成目標に向けバランスよく体系的に修得できるのが大きな特長である。実際の教育は、地域医療の第一線を担う病院・診療所に大学教員を派遣する本学独自のシステム：地域医療教育センター・ステーションをフィールドに、大学と地域が一体となって展開する。運営は、附属病院総合診療グループと総合臨床教育センターを中心に、茨城県や医師会、地域医療機関との緊密な連携の下で行う。本事業の導入により、大学-地域循環型のキャリアパスを確立して、将来の超高齢社会における地域包括ケアをリードできる、優れた総合診療医を数多く養成することを目指す。

推進委員会からの主なコメント　　○：優れた点等、●：改善を要する点等

○地域医療で求められるノンテクニカルスキル（リーダーシップ、コミュニケーション能力、人材育成力等）に重点をおいたプログラムである点は優れている。
○地域医療教育センター・ステーションによる大学―地域循環型研修システムの実績を活かしてさらに強化した取組である点は優れている。
○段階的な体系的教育プログラムを提供するという視点は有効である。
○研究者養成に関するプログラムも充実している。
○事業の新規性について具体的に示されており、目標も具体的である。
●プログラムを構成するスキル内容（臨床推論、ＥＢＭなど）が確実に習得できるよう、きめ細かい教育指導が必要である。
●プログラムの中心は卒後教育であり、卒前の学生を対象にした教育プログラムをより多く用意してもいいのではないか。
●学生のうちからリサーチ・マインドを教育するプログラムを構築できないか検討されたい。
●プログラム数が非常に多いため、その進捗状況・管理についても、随時把握できる体制を構築されたい。

留意事項

●「総合診療レベルアッププログラム」は、科目等履修に該当するのか不明なため、わかりやすく明確化すること。